

教育委員会だより

「自分を傷つける」ことを「自傷行為」と言い、リストカットのよう 自分の体を傷つけ ることや、大量に薬を飲んでしまったような過量服薬などが あります。自傷行為の背景には、家庭の問題、身近な人から の虐待、様々なトラウマ体験による生きにくさなど、目を見つぶりたくなってしまうような不自由で生き苦しい環境やつらい出来事があります。そのため、自傷行為をしてしまう人は、孤独や孤立、自己否定や生きづらさなどつらい感情をもつていたり、「自分はいらない存在、助けを求める

「自分を傷つけないと
そうせざるえない人たち



スクールソポーター
(臨床心理士・公認心理師)
小林 真理

～レーベルの「ボーン・ザ・ビート

るに値しない存在、幸せや楽になつてはいけない」という恥の感情（セルフステイグマ・自分で自分に否定的な記憶や恥の感情を「今の自分」から切り離すために、「今の自分」を守るために自傷行為を行つてしまうのです。ではなぜ、そうしてしまってはしようか。自分を傷つけるということは悲しいことでし、「やつてほしくない」ことですが、こうすることによって、脳の中では報酬系物質が出るため苦痛が緩和され心理的にはつらい出来事や感情が瞬間にやわらぎ、その行動を繰り返してしまつ「負の強化」が起きてしまう、と言われています。私は決して自傷行為を肯定しているではありませんが、そうせざるを得ない人たちがいる、とうことも事実なのです。

が、自傷行為は背景に社会的に苦しい環境があり、そうせざるをえない人たちには、いわゆる「社会的弱者」であり、人に頼ることができない人たちであることが往々にしてあります。自傷行為をやめさせる第一歩は、理解してつながっていくことです。「自分には関係ない」「縁遠い」とではなく、そうせざるをえない人がいる事実に目を向けてみるとこと、自傷行為は望ましくないことではあるけれどもその背景を知ることで少しでもつながりをつくっていくことができれば、もしかしたら傷ついている誰かによりそしこことができるかもしれませんね。

りを避けるようになつてしまふ、という悪循環に陥つてしまふからです。もちろん、そ うせざるをえない人たちも自分を傷つけることを「やめた」と心の底から思つていま すし、「またやつてしまつた」「周りからどう思われるだろう」といった後悔もあります。でも、「やめると苦しくてし んどくて、生きていくことさえつらい」という、「やめたいい、でもやめられない」とい う、相反する気持ちと大きな葛藤を抱えながら過ごしているのです。

11月は「児童虐待防止推進月間」です

A black and white illustration of a diverse group of six children, three boys and three girls, smiling and waving their hands. They are surrounded by small, glowing star-like shapes.

(問い合わせ)
生涯学習課 生涯学習係
番号45-8695

『青少年は地域社会から育む』という観点に立つて青少年にとってより良い環境づくりへの取り組みを進めると、住民の皆さんのが理解とご協力を願いします。

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」

= 27 =

広報かるいざわ

令和3年11月1日 第712号

～旧三笠ホテルの写真や資料を探しています～
旧三笠ホテルに関する写真や資料、思い出話などを募集しています。
お心あたりのある方はご連絡ください。